

## コロナ禍のせいで 歌手になった話

胆振西部医師会  
ひじり在宅クリニック

おかもと たくや  
岡本 拓也

歌手としてお金を稼ぐようになる日が来ようとは、まさかである。

コロナ禍でなければやらなかったであろう、とあるカラオケアプリをダウンロードしたのが、約2年半前。

最初はカラオケとして歌うためだけに使っていた。

しばらくして、歌って録音したものを「投稿」するようになった。機能があれば試したくなる。投稿した僕の歌を聴いてくれる人が少しずつ増えて行った。

さらにしばらくすると、そのカラオケアプリに「ライブ配信機能」が加わった。文明の進歩とは凄いもので、 아이폰1台あれば、大袈裟に言えば世界中の人々に向かってライブ配信できる時代が到来したのである。そのカラオケアプリの会社と「ライバー契約」なるものを結び、恐る恐るライブ配信をするようになった。ライブの中身は歌とトークだが、今の「推し文化」を反映してか、少しずつ固定客もつくようになり、今ではほぼ毎日のように夜はライブ配信をしている。“私を待ってる～人がいる～”という百恵ちゃんの歌よろしく全国津々浦々、僕のライブ配信を待っている人が、何十人かではあるが存在しているのである。なんてこった。

しかも、ライブは投げ銭形式であり、僅かではあるが今や収入を得ている。別にお金儲けのためにやっているのではないし、時給に換算すれば数百円という微々たるものだが、それにしてもである。一応、わずかとはいえ、歌手としてお金を稼いでいるわけだ。これまた、なんてこった、である。

そんなわけで、カラオケアプリをダウンロードしなければ、もっとさかのぼるならば、コロナ禍にならなければ、まず出会わなかったであろう老若男女と 아이폰越しに日々交流している。良い面・悪い面、いろいろと副産物もあるし、詳しく書くと長くなるので書かないけれど、絶えずトラブルも発生する。時間も労力も要する。しょぼいとはいえ「二刀流」はシンプルに疲れもする。しかし、それを上回る楽しさと充実感があるのも事実である。だからこそ続けている。

今や副業と化した歌手活動を、ファン（2023年9月12日現在、フォロワー数3,348人）の方々と共に日々楽しんでいる今日この頃である。人生は何が待っているかわからない。良いこと悪いこと含め、なんてこったいの連続である。でも、だからこそ面白い。

蛇足ながら誤解なきように慌てて一言付け加えるが、本業である医者の仕事も全力で日夜尽力しております。

## 5年前の再スタートに思う

札幌市医師会  
下田ひふ科耳鼻咽喉科クリニック

しもだ かずお  
下田 和夫

2018年9月と聞いて思い浮かぶものは？との問いに、道民の多くが、北海道胆振東部地震とブラックアウトと答えるのではないのでしょうか。

5年前、インフラが整っている生活のありがたみ、防災の重要性を再認識した数日間を過ごした多くの方は、通常的生活へ戻っていったことと思います。もちろん、被災して暮らしが一変し、日常が戻っていない方がいらっしゃることも決して忘れてはいけない現実です。

私の生活も普段通りに戻るはずだったのですが、その1週間後に試練が訪れました。

ブラックアウトの影響がとて少なかつた（停電当日の夜には電気が復旧した）地域にある自分のクリニックで火災が起きたのです。幸いにも、近隣の住宅への延焼は避けられましたが、現場に駆けつけてしばらくは「茫然自失」、ただ燃え上がる炎を見つめているばかりでした。

結果的には翌年1月から診療再開を果たせましたが、再建しようと決心するまでの数日間の長かったこと。しかし、そのわずかな時間に出会った周囲の方々が私の背中を押してくれたのだと思います。

火災の翌日、鎮火したクリニックを眺めながら「これはできるな」とつぶやいた家主さん（うちは賃貸です）、診療があるにもかかわらず駆けつけてくださった同区内クリニックの院長ご夫妻、現場検証の間中（1日かかりました）気にかけてくれた薬局の方々、早朝から駆けつけてくれた卸会社の担当者、休診の間のスタッフを雇用してくださった医療法人の理事長や新規開業したばかりのクリニックの院長、そして煤だらけになりながら、後片付けに毎日出てくれたスタッフ等々。

あれから5年。コロナ禍という未曾有の数年も過ごしてまいりましたが、あの火災からの再スタートができたのですから、これからも何とかやっていけるのでは、と考えることにしています。

最後に、突然の休診からの4か月間、患者さんの要望に応じてお薬の処方をしてくださった近隣の病院、クリニック関係者の皆様、再開を信じて待っていてくださった患者さん、本当にありがとうございました。これからもこの地で、町医者として皆様と共に過ごしていきたいと考えます。よろしくお願い申し上げます。